**２０２０年度　入門講座**　　　　　　　　 　 2020/11/29

**第二十三課　三位一体の神**

「いまだかつて神を見たものはない。父の懐にいる独り子である神、この方が神を

示されたのである」(ヨハネ1・18)

　**より大いなる存在である神を身近に感じた経験を分かち合う。**

教会に行ってみようかと背中を押されたときの感じを思い出してみよう。

わたしたちは神を見ることはできないが、神を身近に感じたり、神が働いていることを感じたりする時が

ある。その体験を分かち合ってみよう。たとえば大自然の雄大さの前で神の存在を感じたなど…

私たち人間が、神について学ぶとき、「神について知り尽くすことはできない」ということを前提として受け入れなければならない。その限界を意識しつつも、なんらかの言葉で「わたしたちの神はこういう方」と表現できるようになりたい。

１．**三位一体の教義の意味；「わたしたちの神」は「父と子と聖霊」である**。

旧約聖書……神は唯一

新約聖書……父と子と聖霊

この双方を矛盾なくどのように統合できるか？

３８１年二ケア公会議は、「三位一体」という表現にまとめ、コンスタンティノポリス信経で明確に宣言された。

**２．救いの歴史の原点**

1. イエス・キリストにおける神の歩み寄り

神の子イエスが人間に神を示し仲介する。

＊イエスは神から遣わされた方

＊このイエスこそ神と自分たちを仲介し結び付けてくださる方　→

＊「このイエスこそ神の子である」と言う表現になる。

弟子たちは復活体験を経て、イエスの主張は正しかったのだと悟る。

信仰の原点：イエス・キリストにおいて決定的な救いのわざがなされたこと。

ヨハネは、神をよく知るということは、キリストにおいてだけ可能になると言っている。

確かに私たちがただ「神」と言うならば非常に漠然とした存在でイメージしにくい。

しかし、私たち人間にとってこの遠い存在が、イエスにおいて接近したということである。

1. **キリストは、神を「アッバ、父よ」と信頼と親しみをもって呼びかけられた。**

父である神は、イスラム教が説く唯一神アラーのような至高者であることを望まず、

御子によって、御自ら人生という最前線を経験されたのである。

1. 「聖霊」とは；

「聖霊」とは父である神の祝福と愛であり、この世に生きる私たちをイエスに結んでくださり、神を「アッバ、父よ」と呼ぶことのできる関係性に入れてくださる。

　　２０００年前の歴史の中に生きて死なれたイエスを、いま目で見ることはできない。現代の私たちは時間と空間を越えて、聖霊において、イエスと結ばれ、イエスを生きた方として体験し、イエスと共に神に向かわされている。つまり神が三位一体であるというのは、神は愛であって交わりの神だということ。私たちの神は孤独で不動の機械のようなものではない。歴史の中に人となって入り、わたしたちを生かし、ご自分の愛の交わりの輪の中に人間を巻き込む方である。

「三位一体」という哲学的表現は、「わたしたちの神」が「父と子と聖霊」であるという、キリスト教の信仰の根源である。イエス・キリストの救いのわざが原点であり、当時の人々にとってはごく自然で素朴なものだった。私たちも十字を切るとき、その信仰表明をする。

神は永遠のうちに存在、その中にあって時間に関係なく、御子は御父から生まれ、聖霊が送られた。この御父である神、御子であるキリスト、そして聖霊という３つのペルソナ(位格)があり、唯一の神性を持っておられる神、それが三位一体の神である。

三位一体の教義は最大の神秘であるので、人間の理性で完全に理解するのは不可能である。

アウグスチヌスの有名な話；彼は毎日毎日、三位一体の神秘について考えを巡らせていた。あるとき、また三位一体のことを考えながら、海辺を歩いていると、小さな子供が、穴を掘ってはその穴に海の水を入れ、穴を掘っては海の水を入れることを、繰り返していた。アウグスチヌスが「何をしているのか」と尋ねると、子どもは「この穴に海の水を全部入れてしまおうとしている」と答えた。アウグスチヌスが、「そんなことできるわけがない」と言うと、子どもは「でも、あなたがしようとしていることより簡単ですよ」と答えて、気づくといなくなっていたという話。その瞬間、アウグスチヌスは、自分が三位一体について小さな頭で理解しようとしているのは、小さな穴に海水を全部入れようとしていることと同じだと悟った。

**アウグスチヌスでもわからない。分からないけど知っていると言っている**。

３．ヨハネ１４章

①**イエスは父に至る道」**

「わたしを見たものが父を見たのである」（ヨハネ１４：９）

「わたしを通らなければ誰も父のみもとには行けない」（ヨハネ１４：６）

1. 子における父の現れ
2. イエスとフィリッポの会話；「主よ、私たちに御父をお示しください」
* 「こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は父を見たのだ」

まさにイエスは「人となった神」なのであり、神の「愛する子」「独り子」である。

* イエスの福音は基本的に「父なる神」というイメージに尽きる。

神は父で私たちは子であるという。この神がイエスを通して自ら語り、行動を起こし、人びと

のところまで駆け寄っている。（「良い羊飼」ルカ15：4～7）

1. 「**聖霊は必ず与えられる**」　「弁護者」すなわち、神の働きとしての霊

聖書の中にも、教会の教えの中にも、聖霊という言葉はよく出てくる。

「霊」はというヘブライ語で「ルア」、ギリシャ語で「プレウマ」と言い、風とか息吹の意味である。したがって聖霊とは、神の生命の息吹を表す。それは、神から遣わされたイエスに働いていた力であり、復活体験を経て弟子たちを変えた力である。

イエスも神の霊に導かれて神の国の宣教に身を捧げ、力ある業を行った。

「神の霊」とは信仰者一人ひとりに働きかけている神の働き、光を与え、力づけ、神の

命に生かす働きであり、神ご自身が共におられること、神の臨在とも言えよう。

この聖霊を含めて、「わたしたちの神は、父と子と聖霊」であるという。

　「聖霊によらなければ誰も『イエスは主である』と言えない」（1コリ１２：３）、

人間の完成は、三位一体の神の交わりの中に入れられ、神の本性に与ることである。

パウロの言うように、聖霊は私たちの内から働きかけ、生かし、悟りを与えてくれるのである。

⑤　神の愛の実践　ヨハネの手紙１章

言っておきたいことはまだまだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」

 (16:12~13a)

|  |
| --- |
| この父、子、聖霊の不可分の関係を、公会議（381年）は「三位一体」という表現でまとめた。キリスト教の信仰は、この三位一体の構造を特徴としている。父と子と聖霊の三者の間の愛の交わりが、唯一の神の本質であると教えている。万物を創造した神は、御子を通してそこに命を通わせ、聖霊はわたしたちを神の愛の交わりの輪に巻き込むのである。 |

**二ケア・コンスタンチノープル信条　　　　　　　　　　　　　　　　　　使徒信条**

わたしは信じます。唯一の神、　　　　　　　　　　　　　　　天地の創造主
全能の父、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　全能の神である父を信じます。
天と地、
見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主を。
わたしは信じます。唯一の主イエス・キリストを。　　　　　　父のひとり子、わたしたちの主
主は神のひとり子、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　イエス・キリストを信じます。
すべてに先立って父より生まれ、　　　　　　　　　　　　　　主は聖霊によって人となり
神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、　　　おとめマリアから生まれ、
造られることなく生まれ、父と一体。　　　　　　　　　　　　ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、
すべては主によって造られました。　　　　　　　　　　　　　十字架につけられて死に、葬られ、
主は、わたしたち人類のため、　　　　　　　　　　　　　　　死者のもとに下り、
わたしたちの救いのために天からくだり、　　　　　　　　　　三日目に復活し、
聖霊によって、おとめマリアよりからだを受け、　　　　　　　天に上って、
人となられました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　全能の　神である父の右の座に着き、
ポンティオ・ピラトのもとで、　　　　　　　　　　　　　　　生者と死者を裁くために来られます。

わたしたちのために十字架につけられ、
苦しみを受け、葬られ、
聖書にあるとおり三日目に[復活](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%A9%E6%B4%BB_%28%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%29)し、
天に昇り、父の右の座に着いておられます。
主は、生者（せいしゃ）と死者を裁くために栄光のうちに再び来られます。
その国は終わることがありません。
わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖霊を。
聖霊は、父と子から出て、　　　　　　　　　　　　　　　　　聖霊を信じ、
父と子とともに礼拝され、栄光を受け、　　　　　　　　　　　聖なる普遍の教会、
また預言者をとおして語られました。　　　　　　　　　　　　聖徒の交わり、
わたしは、聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会を信じます。　罪のゆるし、からだの復活、
罪のゆるしをもたらす唯一の洗礼を認め、　　　　　　　　　　永遠のいのちを信じます。

死者の[復活](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%A9%E6%B4%BB_%28%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%29)と　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　アーメン
来世のいのちを待ち望みます。
アーメン。